

概要

- 国際的な頭脳獲得競争の激化の中で我が国が生き抜くためには、優れた頭脳が世界中から集つてくる”国際頭脳循環のハブ”となる研究拠点の構築が必須。
- 大学等への集中的な支援により、システム改革の導入等の自主的な取組を促し、優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」を形成。
- 平成28年度で、初回に採択された5拠点のうち、4拠点への補助金支援が終了することを受け、**平成29年度には新規2拠点の公募**を行う。
- 補助金終了後のWPI拠点をはじめとする日本トップレベルの拠点をネットワーク化し、それらの持つ経験・ノウハウを展開することで全国的な基礎研究力の強化につなげる新たな枠組みとして**“WPIアカデミー”を立ち上げる。**

拠点のイメージ

- 総勢100～200人程度あるいはそれ以上。(平成24、29年度採択拠点は70人～)
- 世界トップレベルのPI10～20人程度あるいはそれ以上(平成24、29年度採択拠点は7人～)
- 研究者のうち、常に30%以上が外国人。
- 事務・研究支援体制まで、すべて英語が標準の環境。



※平成19年度採択拠点は”World Premier Status”を達成。(赤線)

※平成29年度以降は5拠点に对して補助金支援を継続。(青線)

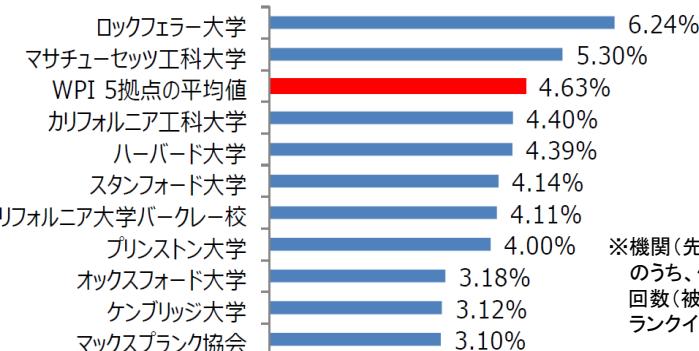
支援内容等

- 対象: **基礎研究分野**
- 支援規模: 13～14億円程度/年 × 10年(平成19、22年度採択拠点)
 ~7億円/年 × 10年(平成24年度採択拠点)
 ~7億円/年 × 最長10年(平成29年度新規採択)
- ノーベル賞受賞者や著名外国人研究者で構成されるプログラム委員会による丁寧かつ細やかな進捗管理。

WPI拠点の成果

- ・世界のトップ機関と同等以上の**卓越した研究成果**。
- ・平均で研究者の**40%以上が外国人**。
- ・世界最高水準の基礎研究の集積と国際的な研究ネットワークを構築。
- ・**民間企業や財団等から大型の寄付金・支援金を獲得**。
 例: 大阪大学iFReCと製薬企業の包括連携契約(100億円/10年)

(参考) 質の高い論文の輩出割合※



※機関(先行5拠点)から出た論文のうち、他の研究者から引用される回数(被引用数)が多い上位1%にランクインする論文の割合。

(トムソンロイター社調べ(2007年～2013年))